

別記様式

令和5年度 学校評価報告書

令和6年3月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川東高等学校長 郡 司 慶 次

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

【全日制課程】

自らの感性や創造性を磨き、自分の人生や社会とのつながりを実感できる生徒、自らの能力を引き出し、その能力を将来会う課題の主體的な解決に活かすことのできる生徒、心豊かで、リーダーシップを発揮できる生徒を育成する。

【定時制課程】

一人間性豊かな生徒の育成を期してー

- (1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自ら努力する姿勢をもった生徒を育成する。
- (2) 学習への意欲を高め、進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。
- (3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
学習指導	生徒の授業満足度、学習の量的確保と質的向上、生涯にわたる知的態度の涵養、「旭東 SCHOOL MISSION」と紐付けした教育活動の実践のいずれも生徒・保護者等から一定の評価を受けた。	・生徒の満足度が高いため、これをさらに上げるのは相当難しい。次年度の目標のポイントを絞る必要がある。 ・評価の高まり、評価の維持が認められ、このままの取組でよい。
改善方策	・観点別評価の整合性を取り、明確な説明を実施する。 ・学習習慣の定着を図るために、今後も週1000分の定着を呼びかける。 ・今後も、読書に係る環境整備に努める。 ・具体的教育活動をスクール・ミッションにひも付けることを継続する。	
生徒指導	ルールの順守、マナーやモラルの維持・向上、生徒会活動いじめ防止対策の充実、部活動について生徒・保護者等から一定の評価を受けた。適切な部活動指導の在り方を検討していく必要がある。	・持続的な部活動として目指すべきイメージを教員間で共有すること。 ・学習以外にも、いじめ、部活動、生徒会等の指導、高校生には重要なことである。 ・身だしなみ、通学指導を合わせた指導における評価が下がった原因を明らかにして、対策を立てる必要がある。
改善方策	・現在の指導を継続し、様々な状況に応じて、柔軟に対応できる生徒の育成を図る。 ・旭東DPとの関連も考慮して、臨機応変に活動していく。 ・今後も迅速に対応するとともに、情報発信も適切に行う。 ・顧問と生徒の状況を踏まえて、持続可能なあり方を検討していく。	
進路指導	進路指導における情報収集・分析と共有、外部講師による講演会、医療系・教育系ディスカッションの実施、「アカデメイア探究」の実施等、生徒・保護者等から一定の評価を受けた。	・今後、進学と紐付けた探究活動が必要となる。 ・進路指導については、東高は定評のあるところであり、これからも、高い評価を維持・継続していくことが望まれる。
改善方策	・大学入試改革に関わる変更等について適切に情報提供し、指導を充実させる。 ・旭東DPやスクールミッションと教育活動をひも付ける。 ・総合探究や課外の様々な活動をととして、有為な社会人・国際人の育成を図る。	

健康・安全指導	教育相談、特別指導等における組織的な支援、心身の健康課題に対する組織的な支援、安心・安全な学校生活について生徒・保護者等から一定の評価を受けた。	・能登半島地震で何が起きたか？復旧復興の経過を教材とすることで”生きた”防災教育ができると思う。 ・充実した高校生活を送るためには、心身の健康が何より重要である。 ・メンタル面にも配慮した取組が行われ、一定の評価を得ていることを確認できる。
改善方策	現在の取組を継続する。	

【学校運営に対する評価】（全日制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
信頼される学校づくり	学校評価の充実、地域や保護者等に対する情報発信の強化、保護者からの信頼度の向上について保護者等から一定の評価を受けた。	・Instagramの活用も検討してはどうか。 ・地域と連携した行事や課外活動について検討してはどうか。 ・学校と保護者との信頼関係の構築が、子どもへの指導、教育をスムーズに行うには重要である。
改善方策	・HP等について取組を継続する。 ・低評価の項目に対し関係分掌等で改善策を検討し、公表・実践する。	
組織運営	会議等の効率化、校内組織の見直しについては一定の自己評価をしているが、働き方改革への取組は、改善すべき喫緊の課題である。	・教員も一つの職業、一般企業同様、働き方改革は最優先で行う必要がある。 ・働き方について、生徒との関わりを密にすれば、必然的に教師の勤務時間が増えるであろうし、充実した指導と勤務時間の軽減は、両立しないと思う。
改善方策	・勤務時間を意識した会議の設定を徹底する。 ・改善内容についての検証と研修を継続して行う。 ・管理職だけではなく教職員ひとり一人の意識を高め、改善を図る。	
教職員の資質向上	授業研究・校内研修の充実、不祥事を防止する職場環境の保持について、一層の改善が必要であるとの自己評価をしている。	・旭東の教員というだけで、責任は重くなる感じがする。働きやすい職場環境をつくる、なかなか難しいことでしょう。 ・札幌圏の私立高校と比べてオンライン学習や端末の利用が遅れているのではないかな。 ・教師が愚痴を吐露できる環境になっていないと思われるので、教師についてもカウンセリングを実施する必要があるのではないかな。
改善方策	・オンライン学習、BYODの実施とそれに係る研修の充実・実施、端末を利用した授業内容の工夫・改善等、今求められる学習指導のあり方について優先的に進める必要がある。 ・風通しの良い職場環境づくりを進める。	
公表方法	・学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開 ・ホームページへの掲載	

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
学習指導	・基本的な学力の定着に努めるとともに、生徒に振り返りをさせることで、授業改善につなげることができた。	・自己評価が高まっており、客観的に一定の成果があったものと思われる。 ・生徒の振り返りをどう授業改善につなげたの

	・昨年度から自己評価の数値が高まっており、一定の評価を得ている。	か、各教員の取組を共有することが有効である。
改善方策	・生徒自身が振り返りをする際に成長がわかるように、授業のねらいや目標を明確にする。 ・生徒の授業アンケートについて、簡潔に記述できるように内容ややり方を改善する。 ・教職員の取組について共有する研修を実施し、さらに授業改善を図る。	
生徒指導	・生徒会行事の充実が昨年度から評価が高まった。 ・自己管理能力の向上や部・同好会の活性化の自己評価はやや低めだが、保護者等アンケートでは評価が得られている。	・行事、部活の充実、通学や卒業の意欲にもつながる。 ・自己評価が低い項目もあるが、保護者から評価を受けているので、取り組みの成果は出ているものとする。 ・学校での取組を生徒自身が保護者に伝えられる工夫が有効。そのためには、教員と生徒の間で「成果の見える化」が基盤となる。
改善方策	・生徒に身につけさせたい力について、教職員で共有して指導に当たる。 ・組織的な指導を行い、いじめを予防、早期発見する。	
進路指導	・進路指導の充実、卒業生の早期決定につながった。 ・昨年度から自己評価の数値は高まったが、保護者等アンケートはやや低めとなった。	・保護者の理解を得るために家庭訪問が必要ではないか。 ・自己評価の高まりが大きく、客観的に大きな成果があったものと思われる。 ・保護者や生徒のニーズに合っているか検討が必要である。
改善方策	・進路に関する保護者説明会を実施する。 ・PTAと連携し、本校生徒に必要な指導内容についてさらに改善を図る。	
健康・安全指導	・個別支援体制を充実させ、生徒の状態把握に努めた。 ・自己評価は一定の評価を得た。	・自己評価にかかわらず、地道に継続的に指導・取り組みがなされていると推察する。 ・「安心」は生徒ごとに異なるので、ニーズを捉えるために普段からのコミュニケーションが大切である。
改善方策	・対人関係に課題を持つ生徒が多いため、根気強く継続した指導や助言を行う。	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
地域に信頼される学校づくり	・HPのこまめな更新やPTA活動の活性化に努め、自己評価は一定の評価を得た。	・アンケートを受けての改善点を保護者に確実に伝えることが回収率向上のカギである。HPでの発信は一方的なので、「顔の見える」機会を増やせるとよい。 ・保護者アンケート結果がやや低いのは、学校側とのコミュニケーションについて、保護者が実感できないことが挙げられる。
改善方策	・学校での取組についての情報発信の仕方を工夫する。 ・今年度はPTA委員の数も増え、活動が活発化した。保護者等と協働した学校づくりに努める。	
組織運営	・会議等の効率化や分掌組織の活性化に努めるとともに、職員室内で気軽に話し合って課題解決することができたことから、自己評価は高評価であった。	・全日制に比べ教職員が少なく、効率化・活性化など対応が難しいと感じる。 ・客観的な成果が伴っている。
改善方策	・業務内容についての見直しを継続する。	
教職員の資質	・授業研究や校内研修の充実、一定の評	・教職員同士の良好な関係性は生徒にも伝わる

向上	価を得た。	ことなので大切なことである。 ・考える力をつける努力をしている。 ・学習者中心の授業についての研修も有用である。
改善方策	・I C Tの活用や生徒指導等に関する校内研修を充実させる。 ・教職員間のコミュニケーションを充分に取り、よりよい職場環境の整備に努める。	
公表方法	・学校評議員会および同窓会、P T A、定時制教育振興会への公開。 ・ホームページへの掲載。	

3 添付資料

- (1) 自己評価 (全・定)
- (2) 学校関係者評価書 (全・定)
- (3) 保護者等アンケート集計結果 (全・定)